it is a company that collects waste

エコアクション21
環境経営レポート

2023年9月21日改定

活動期間2022年7月～2023年6月

株式会社ECJ

http://www.ecj.co.jp/

認証・登録番号　0004392
認証・登録日　2009年11月26日

EVER CLEAN JAPAN

目次

- 会社概要
- 環境経営方針
- 許可証一覧
- 車両一覧
- 廃棄物フロー図
- 実施体制図
- 環境活動計画
- 次年度の取組内容
- 目標設定と実績
- 目標達成状況と
  環境活動計画の実施状況評価
- 環境関連法規への違反、
  訴訟等の有無
- 代表者による見直し

company that collects waste
EVER CLEAN JAPAN

会社概要

会社名及び代表者氏名

- 株式会社ECJ　代表取締役　重成敏夫

設立

- 昭和62年1月22日

資本金

- 1,000万円

本社スクラップヤード

- 〒245-0067　神奈川県横浜市戸塚区深谷町1881番地
- TEL：045-851-0001
- FAX：045-851-1001
- MAIL：office@ecj.co.jp　　敷地面積：1,842㎡

従業員数

- 41名（2023年6月現在）

認証・登録範囲

- 本社スクラップヤード

事業内容

- 一般廃棄物収集運搬業
- （特別管理）産業廃棄物収集運搬
- 金属・空びん・古紙リサイクル業
- 解体業
- 古物商

売上高

- 432百万円（2022年度）

2022年度処理量実績

- 産業廃棄物（収運）　1,315.04t
- 一般廃棄物（収運）　8,085.18t
- 特別管理産業廃棄物（収運）　6.27t
- 資源物等（収運及び切断・圧縮・選別処理）　1,718.44t
- 処理量合計　11,124.93t

廃棄物処理料金

- その都度見積もりにより決定

環境管理責任者及び連絡先

- 取締役　浅野明香音
- TEL：045-851-0001

環境経営方針

【環境理念】

株式会社ECJの従業員１人１人は責任を持って、
企業活動の全域で環境に優しい社会の実現に貢献します。

【行動指針】

1.事業活動を通じ、3Rを推進します。
2.地域住民や関係諸官庁とのコミュニケーションをはかり、自主管理を徹底して、継続的に環境経営の改善につとめます。またこの環境保全活動を通じて地域社会に貢献します。
3.従業員に対する環境教育を計画的に実施し、意識の向上をはかり、その考えのもと行動するよう呼びかけます。
4.環境に関連する法規制及び各自治体の環境条例、協定及びその他当社が同意する要求事項を遵守します。
5.事業活動で使用する物品等の購入において、環境に配慮したグリーン購入に取り組みます。
6.エコドライブの推進により、軽油使用量の削減を目指し環境に負担をかけないように心がけます。
7.化石燃料使用量及び電力使用量削減をし、二酸化炭素排出量の削減につとめます。

この方針をすべての従業員および関連事業者に周知すると共に社外へも開示いたします。

2021年12月22日
株式会社ECJ
代表取締役　重成敏夫

許可証一覧①

許可証種類		許可番号	許可期限 （許可年月日）
産業廃棄物収集運搬業許可証 （廃棄物の種類：燃え殻、汚泥*、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラ*、紙くず*、木くず*、繊維くず*、動植物性残さ、ゴムくず*、金属くず*、ガラスくず*、陶磁器くず*、がれき類*） *積替・保管を含む	神奈川県	1413003777	令和10年6月30日 （令和5年7月19日）
産業廃棄物収集運搬業許可証 （廃棄物の種類：汚泥、廃油、廃プラ、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、がれき類等） ※積替・保管を除く	千葉県 栃木県 東京都	1200003777 900003777 1300003777	令和8年8月31日 （令和3年9月1日） 令和8年4月25日 （令和3年4月26日） 令和8年3月19日 （令和3年3月20日）
一般廃棄物収集運搬業許可証 （廃棄物の種類：ごみ）	横浜市 藤沢市 大和市	1076 1-50 218	令和6年3月31日 令和6年3月31日 令和6年3月31日 （令和4年4月1日）

許可証一覧②

許可証種類		許可番号	許可期限 （許可年月日）
特別管理産業廃棄物 収集運搬業許可証 （廃棄物の種類： 感染性産業廃棄物）	神奈川県	1453003777	令和10年6月30日 （令和5年7月1日）
再生資源回収事業者認定証		N14K-00806	令和6年11月17日 （令和3年11月20日更新）
廃棄物再生事業者登録証	神奈川県	G00133	（平成12年9月25日）
引取業登録通知書	横浜市	20561000542	令和6年9月14日 （令和元年9月15日）
古物商許可証	神奈川県	452660200086	（平成2年8月22日）

車両一覧

形状	車両番号
脱着装置付コンテナ専用車　10t	横浜100は7227
脱着装置付コンテナ専用車　4t	横浜100せ7759 横浜100そ7440 横浜100そ7441 横浜100た9998
脱着装置付ｺﾝﾃﾅ専用車　2t	横浜400ね1709 横浜400み8095
バン	横浜100そ483
キャブオーバ	横浜400ひ4891 横浜400ひ4892 横浜100そ5763 横浜100め3 横浜480せ7985 横浜400め2550 横浜100は7061
冷蔵冷凍車	横浜800ち6765
ダンプ	横浜41せ6574 横浜400ひ8938 横浜100た543 横浜400ほ2107
塵芥車　4t	横浜800ち504 横浜800ち786

形状	車両番号
塵芥車　2t	横浜830す105 横浜800ち343 横浜800ち344 横浜800つ368 横浜800つ1127 横浜800つ1128 横浜800つ3001 横浜800つ3002 横浜800つ3003 横浜800ち3338 湘南800せ4960 湘南800せ4970 湘南800せ5093 横浜800ち5364 横浜800ち6621 横浜800つ6730 横浜800ち7939 横浜800ち7940 横浜800ち7941 横浜800つ8188 横浜800つ8189 横浜800ち9429 横浜800ち9430 横浜800ち9431 横浜800そ9775 湘南800す9837

計48台（2023年9月現在）

再資源化処理機一覧

金属くず･びん･古紙の切断･圧縮･選別

処理機名	台数
マグネ付バックホー	2
フォーグラフ付バックホー	2
コンパクトシャー	1

処理機名	台数
プレス機	2
ベーラー	1
シュレッダー	1

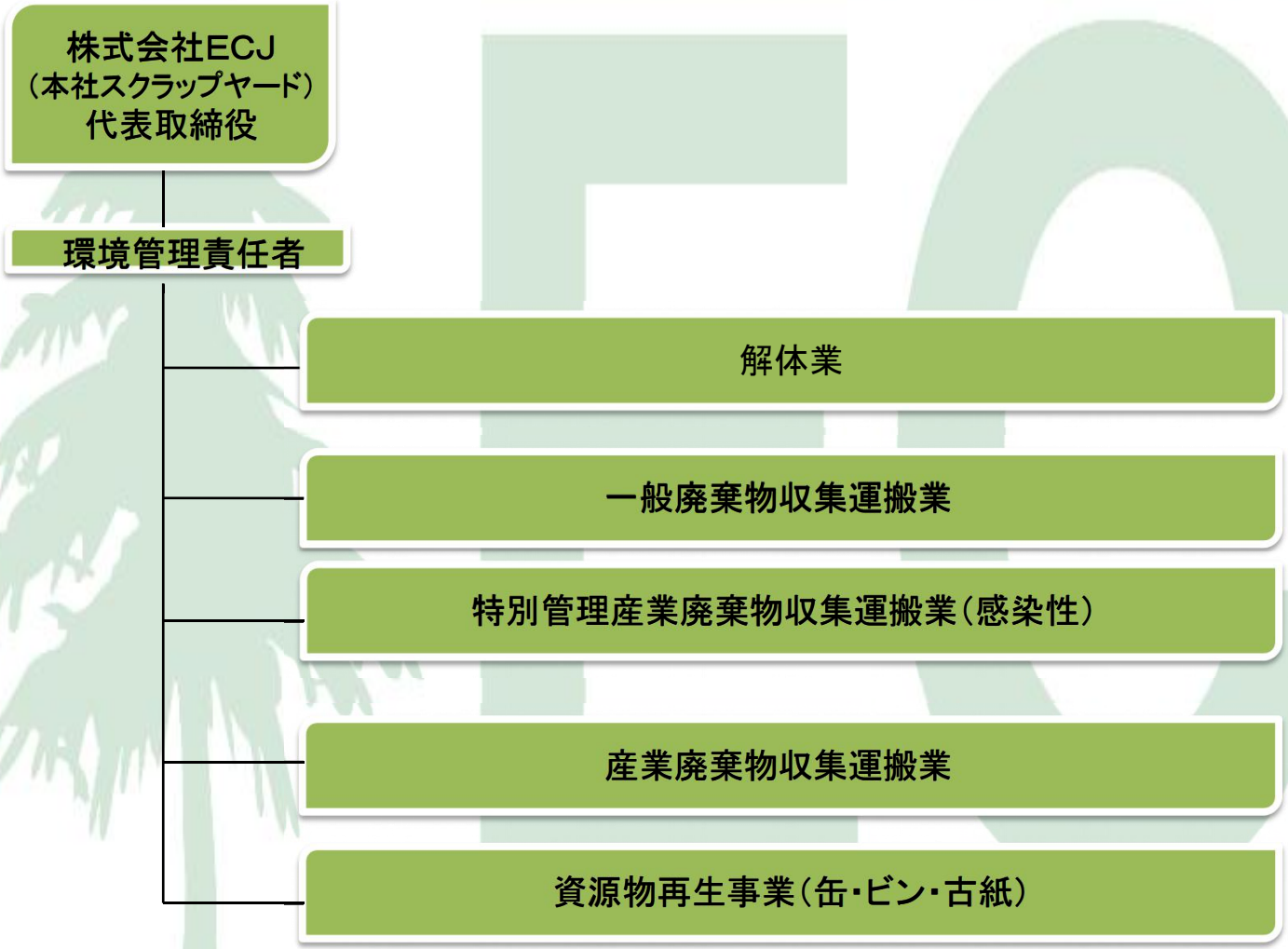
処理機名	台数
フォークリフト	3
コンプレッサー	3

廃棄物フロー図

2023年9月 現在

a company that collects waste
EVER CLEAN JAPAN

実施体制図



is a company that collects waste
EVER CLEAN JAPAN

役割	責任・権限
代表取締役	•実施体制を構築し、実施体制において各自の役割・責任及び権限を定め全従業員へ周知 •環境経営に関する統括責任 •経営における課題とチャンスを整理し明確化 •環境経営システムの実施に必要な人・設備・費用・時間・技能・技術者を準備 •環境管理責任者を任命 •環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 •環境目標・環境活動計画書を承認 •代表者による全体の評価と見直しを実施 •環境活動レポートの承認
環境管理責任者	•環境経営システムの構築・実施・管理 •環境関連法規等の取りまとめ表を承認 •環境目標・環境活動計画書を確認 •環境活動の取組結果を代表者へ報告 •環境活動レポートの確認 •環境活動レポートの作成・公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
全従業員	•環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 •決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

環境経営目標設定

項目	目的	実施場所	2022年度用 基準年	2022年度	2023年度用 基準年	2023年度	2024年度
			2021.7～2022.6	2022.7～2023.6	2022.7～2023.6	2023.7～2024.6	2024.7～2025.6
			実績	目標	実績	目標	目標
軽油の使用量	使用量の削減	全社	10.99L/t	10.99L/t	11.29L/t	11.29L/t	11.29L/t
				現状維持		現状維持	現状維持
環境配慮 リサイクル率	リサイクル率の 向上	解体現場	87.25%	87.25%	87.25%	87.25%	87.25%
				現状維持		現状維持	現状維持
水使用量	使用量の削減	本社スクラップヤード	487m3	482m3	391m3	387m3	383m3
				1%減		1%減	2%減
二酸化炭素 総排出量	排出量の削減	全社	435,704kg-Co2	433,525kg-Co2	420,326kg-Co2	418,224kg-Co2	416,123kg-Co2
				0.5%減		0.5%減	1%減

電力の二酸化炭素排出係数・・・0.525kg-Co2kg/kWh
＜備考＞化学物質は扱っていないので環境目標は設定していません。

環境経営目標達成状況と評価

	運用期間（2021年7月～2022年6月）			未達原因・達成理由	改善施策（是正処置）（未達項目のみ）
	目標	結果	評価		
軽油使用量削減 基準値に対し 現状維持（年） 2021年 10.99L/t ↓ 2022年 10.99L/t	10.99L/t	11.29L/t	×	未達理由 ヤードの片付けをしたり重量物を運ぶ機会が多く未達となった。スクラップは何度か品質が悪く持ち帰りとなったこともあった。またCNG車を廃止したことも少し影響したかもしれない。	エコドライブ教育を徹底し、こまめにエンジンを切るなど細かい指導も進めていくようにする。運搬物の品質の管理も怠らないようにする。
環境配慮リサイクル率向上 基準値に対し 現状維持（年） 2021年 87.25% ↓ 2022年 87.25%	87.25%	87.25%	○	達成理由 分別教育を従業員に徹底し、計画性をもって解体工事をすすめることができた。	―
水使用量削減 基準値に対し 1%削減（年） 2021年 487m3 ↓ 2022年 482m3	482m^3	391m^3	○	達成理由 前期の散水量が多かったので目標値が高めだった。スクラップを扱う量が引き続き多かったが慣れてきて仕事の効率化が図れた。	―
二酸化炭素総排出量削減 基準値に対し 0.5%削減（年） 2021年 435,704kg-Co2 ↓ 2022年 433,525kg-Co2	433,525 kg-Co2	420,326 kg-Co2	○	達成理由 スクラップを扱う量が引き続き多かったが慣れてきて仕事の効率化が図れた。	―

電力の二酸化炭素排出係数・・・0.525kg-Co2kg/kWh
軽油使用量＝軽油・ガソリン・CNG・LPG使用量（ℓ）/廃棄物等処理量（t）
環境配慮リサイクル率（解体）＝（全廃棄物処理量868.22t－埋立量110.7t）/全廃棄物処理868.22t×100
＜備考＞化学物質は扱っていないので環境目標は設定していません。

環境経営計画

環境経営目標(実施事項)	具体的実施事項
軽油の削減	ドライバーへの教育を進め、仕事量に対しての 軽油量削減を試みる。 ◎アイドリングストップ ◎混雑しない経路の選択 ◎空ぶかし等をなくす。
最終処分廃棄物排出量削減 (リサイクル率の向上)	解体現場でのリサイクル率の向上をはかる。 ◎作業員への教育を行い再資源化できるもの等の知識を増やす。 ◎分別、選別の徹底
水使用量削減	必要最低限の使用量に抑える。 ◎漏水チェック ◎こまめに節水
二酸化炭素総排出量削減	軽油使用量を重点的に二酸化炭素の総排出量削減を試みる。 ◎アイドリングストップ車の導入などで削減する。

環境経営計画に基づき実施した取組内容及び取組結果と評価

環境目標（実施事項）	環境活動計画に基づき実施した取組内容・取組結果	評価
軽油の削減	収集運搬量当たりの軽油使用量は、3年間継続して前年実績より削減できていたが、今年度は達成できなかった。原因としては搬出先の品質基準が厳しくなるなどして、重量物を運搬したにも関わらず持ち帰ってくることが数回あったことや、スクラップヤード内の整理のために重量物を多く搬出したことがあげられる。 今後は品質基準の確認を怠らず現場との連携をしっかりとることや、引き続き効率の良い運搬ルートの選定等を行い目標達成していく。	×
最終処分廃棄物排出量削減 （リサイクル率の向上）	解体工事を始めるに当たり、毎回再資源化可能廃棄物、分別・選別教育を従業員に徹底して行った。結果目標を達成することが出来た。計画性をもって解体工事をすすめることができた。	○
水使用量削減	昨年に引き続きヤード内での作業量は多く散水量も多かったが、こまめに節水を心がけるよう呼びかけたことで使用量削減が達成できた。	○
二酸化炭素総排出量削減	大きな機械を動かすときは他の機械を止める等を徹底し無駄のないように心がけたり、昨年度からの作業の見直しを行い効率よく作業を行えるようになってきたため目標達成となった。	○

EVER CLEAN JAPAN

次年度の環境経営計画

1.今年度の活動方針を継続する。
更に
2.軽油削減⇒・過積載を避ける
・車両整備の強化
・アイドリングストップの実施
3.水使用量の削減
⇒こまめな節水
4.リサイクル率の向上
⇒解体業務において分別リサイクルを徹底
5.二酸化炭素総排出量削減
⇒・軽油使用量削減
・電力使用量削減
（照明・設備の不使用時電源オフ、新規設備導入）

環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連該当法規等一覧

- 〇建設リサイクル法
- 〇廃棄物処理法
- 〇下水道法
- 〇浄化槽法
- 〇自動車NOX・PM法
- 〇消防法
- 〇横浜市生活環境の保全等に関する条例（本社スクラップヤード）
- 〇道路交通法
- 〇道路運送車両法
- 〇騒音規制法
- 〇振動規制法
- 〇フロン排出抑制法

・自主的にチェックした結果、環境関連法規への違反はありません。

・なお、関係当局からの違反等の指摘は過去3年間ありません。

代表者による見直し

ソーシャルメディアの普及により廃棄物に対して適正処理の意識が高まったり、地球温暖化などの環境問題がクローズアップされていることで、業界全体が注目されつつあるが高齢化や人出不足を痛感する1年となった。解体工事は外注に頼むことも多く、分別の徹底が従来通りにいかないこともありリサイクル率の向上には苦戦を強いられたが、地道な教育が身を結び現状維持となった。廃棄物や資源物の品質管理が厳しくなり、大量の重量物を運んだのに返品されてしまうことが何度かあったり、重機や機械の老朽化による修理や入替作業時に燃料を無駄にしてしまうことなどもあり軽油量の削減は未達になってしまった。経年劣化は避けられないがメンテナンスを行うなどして大切に使用し、品質管理の部分では取引先に運搬前に写真で確認してもらったり見に来てもらうなどして効率化を図るようにしていきたい。昨年に引き続き横浜市の金属くずの運搬業務委託（1ヶ月ごとの入札）を請け負ったが、こちらはだいぶ効率化が図れるようになり水使用量は削減することができた。電気管理会社の取組の一環で、電気を見える化したがまだうまく使いこなせていないところがあるので、現場責任者と事務所が連携し活用していきたい。これからも全従業員への環境教育を徹底し、限りある資源を大切に使いながら、廃棄されるものの中からは極力資源化を推進して、孫の代のその先まで持続可能な社会を構築する一員として尽力していきたい。

株式会社ECJ
代表取締役　重成敏夫